内視鏡補助下甲状腺切除術の先進医療の開始について

耳鼻咽喉科・頭頸部外科　野村研一郎

甲状腺疾患は圧倒的に女性に多く発生し、また近年エコー等の画像検査の向上、検診の普及もあり、国内のみならず世界的にも甲状腺腫瘍の発生率が増加しており、その手術件数も増加しています。甲状腺の通常の手術方法は、前頸部に創部が残るため、審美性に問題が生じ、特に女性には大きなストレスとなります。よって、当科では頸部外よりアプローチする内視鏡補助下甲状腺手術を2009年より導入しています。当科で採用しているVideo-Assisted Neck Surgery（以下VANS法）は、前胸部鎖骨下外側に皮膚切開をおき、皮弁を吊り上げることでワーキングスペースを作成し手術を行います。創部が比較的に頸部に近いにもかかわらず、着衣で完全に隠れるということが、この手術方法の大きな利点です（写真）。

VANS法術後の創部。創部は着衣で完全に隠れる場所に存在します。

甲状腺疾患に対するVANS法の手術適応は現在のところ、最大径７cm程度までの良性の結節性甲状腺腫、リンパ節転移の無い早期甲状腺乳頭癌、甲状腺容量が60ml以下のバセドウ病としています。現在当科での手術症例数は180例を越え国内で２番目の症例数となりました。また、平成26年度の当科での甲状腺手術総件数は約100件であり、良性腫瘍に対する手術に対しては全体の８割、バセドウ病に対しては全体の５割、悪性腫瘍に対しては全体の３割をVANS法で施行でき、合計で甲状腺手術総数の半分をVANS法で施行することが可能でした。

さらに、2014年より甲状腺内視鏡手術に対して先進医療Aが開始され、当院でも2015年２月より先進医療として内視鏡下甲状腺手術を開始しています。全国でも先進医療で内視鏡下甲状腺良性手術を行っている医療機関は９施設、悪性手術を行っている施設は５施設のみです。内視鏡下で良性、悪性の両方を取り扱っている東北以北の医療機関は当院のみであり、また耳鼻咽喉科で行っている施設は全国唯一です。今後もより多くの甲状腺腫瘍、手術適応のバセドウ病患者さまのご紹介を頂けましたら幸いと存じます。